

英語科 学習指導案

日時 平成18年11月15日(水) 5校時

学級 2年5組(男17名女18名計35名)

授業者 齊藤直生

1 単元名 Unit 2 Emi Goes Abroad Dialog (NEW HORIZON English Course book2)

2 単元について

(1)教材観

学習指導要領では、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」ということを目指している。二年生では実践的コミュニケーション能力の基礎を培うために、各単元において、具体的な場面・状況設定で様々な言語活動を展開している。

本教材は、クリスマスをめぐる単元で、「きよしこの夜」の誕生秘話が主眼となっている。Starting out ではクリスマスのブラウン家の部屋の情景を描写している。Dialog ではクリスマスプレゼントの本についての対話である。Reading communication ではクリスマスのエピソードの「きよしこの夜」の誕生秘話で心温まる話となっている。

本単元で取り扱う文法事項は、There is [are] 構文とその疑問文と応答の形、動名詞を目的とする形と主語とする形を取り上げている。本時では、There is [are] 構文を用いた文の対話を通して情報を整理し、それを絵で表現して、正しく書くことを到達目標とする。

(2)生徒観

本学級の生徒は、ほとんどの生徒が音読や発表の場面で意欲的に活動することができている。間違ふことを恐れずに話すことができる雰囲気の中で授業に臨み、男女仲も良く言語活動にも積極的に取り組むことができている。しかし基礎・基本が定着していない生徒が多く、読解力や書く力が不足していることが学調やその他のテスト結果からも明らかになっている。そのため基礎・基本をしっかり身に付けさせ、英文を聞いたり読むことや文法に気をつけて正しく英文を書くことの意欲を引き出すため、継続して、一年時の復習をウォームアップに取り入れたり、英語を多く用いた授業を展開してきた。その結果、熱心に英語の話を聞き取ろうとする姿や転写の場面で英語を用いてまとめる姿が多く見られるようになった。

(3)指導観

本単元における基礎・基本は「There is [are] 構文の形・意味・用法を正しく理解し、表現できること」と「動名詞の目的と主語の形・意味・用法を正しく理解し、表現できること」である。There is (are) ~ .の表現を生かして身の回りにあるものについて説明したり、聞いたことを絵で表現させることで興味・関心を持って取り組ませたい。また動名詞を利用した英文を使って、自分の好きなことを書いたり発表することで、表現の能力を高めてさせたい。そのためのコミュニケーション能力を身につけさせる手段として、話の内容をできるだけ正確に伝えるために、正しい発音で基本本文を読む練習を十分に行ったり、アイコンタクトや身振り手振りを交えての対話練習を行っていききたい。つぎに話を聞きながらメモをとり、それを転写という形で英語でまとめることで、学んだことを想起させたい。クリスマスのエピソードの「きよしこの夜」誕生秘話

を題材に、クリスマスの歌の内容や由来について関心を持たせながら読みすすめていきたい。

3 単元の目標及び評価計画

(1) 単元の指導目標

〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕

- ・ There is (are) ~ . の表現を使って身の回りについてすすんで発表しようとする。
- ・ 動名詞を用いて、自分や友達のことについてすすんで発表しようとする。
- ・ クリスマスの歌についてすすんで調べ、発表しようとする。

〔表現の能力〕

- ・ There is (are) ~ . の表現を生かして英文を作ったり、発表したりできる。
- ・ 動名詞を用いて、好きなことを紹介することができる。

〔理解の能力〕

- ・ There is (are) ~ . を用いた文をメモを取りながら聞いて、絵で表すことができる。
- ・ 本文を読んでどのようなプレゼントなのかを読み取ることができる。
- ・ オルガン奏者の話を読み取り、その内容を日本語で言うことができる。

〔言語や文化についての知識・理解〕

- ・ There is(are) ~ . 構文の英文を正しく書くことができる。
- ・ There is(are) ~ . の英文の疑問文と応答の形を正しく作ることができる。
- ・ 動名詞を用いた英文を正しく作ることができる。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	観点別評価規準			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1.5	Starting out	There is (are) ~ . の表現を使って身の回りについてすすんで発表しようとする。	There is (are) ~ . の表現を生かして英文を作ったり、発表したりできる。		
1 (本時)	Starting Out (本時)			There is (are) ~ . を用いた文をメモを取りながら聞いて、絵で表すことができる。	There is(are) ~ . 構文の英文を正しく書くことができる。
1	Dialog			本文を読んでどのようなプレゼントなのかを読み取ることができる。	There is(are) ~ . の英文の疑問文と応答の形を正しく作ることができる。
1.5	Reading communication	動名詞を用いて、自分や友達のことについてすすんで発表しよう	動名詞を用いて、好きなことを紹介することがで		動名詞を用いた英文を正しく作ることができ

		とする。	きる。		る。
1.5	Reading communication	クリスマスの歌についてすすんで調べ、発表しようとする。		オルガン奏者の話を読み取り、その内容を日本語で説明できる。	

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ There is(are) ~ を用いた文をメモを取りながら聞き、絵で表すことができる。〔理解の能力〕
- ・ There is(are) ~ 構文の英文を正しく書くことができる。〔言語や文化についての知識・理解〕

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体的評価規準		C 努力を要する生徒への指導の手立て	評価場面(方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
理解の能力	There is (are) ~ . を用いた文をメモを取りながら聞き、絵で表すことができる。	There is(are) ~ . の文をメモを取りながら聞き、前置詞や数量に注意し詳しく絵で表すことができる。	There is(are) ~ . の文を聞き、物の位置関係を絵で表すことができる。	班員の情報をヒントに、絵を考えさせる。	英文を聞き、絵で表す場面(行動観察)
言語や文化についての知識・理解	There is(are) ~ . 構文の英文を正しく書くことができる。	前置詞や数量に注意し、正確な There is(are) ~ . の英文を書くことができる。	There is(are) ~ . の英文を用いて書くことができる。	机間指導を行い個別にアドバイスをする。	学習の確認・まとめをする場面(プリント)

(3) 研究主題との関わり

ア 本時の基礎・基本

- ・ There is (are) ~ . の意味内容がわかる。
- ・ There is (are) ~ . の構文がわかる。

イ 指導の工夫

- ・ 既習内容を確実に定着させる。【反復・ドリル学習】
- ・ 授業の最後のまとめとして各生徒転写をする。【転写】

ウ 動機付けの工夫

- ・ 導入場面で教材教具を工夫し生徒の興味関心をひきつける。【興味・関心】
- ・ グループ学習による教え合い学習を進める。【有能感】
- ・ 学習した内容を深めるために発表の場を設ける。【有用感】

5 展開案

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手だて 指導の留意点 支援	評価の工夫 具体的評価規準(評価場面)	研究内容との関わり
導入	1 Greeting 2 Warm-up & review ・ リズムマシンに	テンポ良く、口頭練習を		反復・ドリル

15分	<p>よる語句の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本表現を練習する。 <p>3 学習課題の把握</p>	<p>行い、前置詞の違いを分かりやすく絵を用いて説明する。</p> <p>There is (are) ~ 構文を用いて既習の表現を練習する。</p> <p>英語を聞いて絵を描かせる。</p>		<p>動機付けの工夫 〔興味・関心〕</p> <p>基礎・基本</p> <p>動機付けの工夫 〔有能感〕</p>
ものがどこにあるのか情報を集めて、絵で表そう。				
<p>展開</p> <p>30分</p>	<p>4 Communication activities</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話をして情報のやりとりをする。 ・各グループで話し合い、絵を描く。 ・完成した絵を発表する。 <p>5 Writing</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自転写法を用い、本時のまとめをする。 	<p>机間指導をし、つまずきのある生徒に支援する。</p> <p>会話表現を用いて、There is (are) ~ 構文を取り入れた対話活動を進めさせる。</p> <p>頑張ったところを具体的に褒め、励ます。</p> <p>描いた絵やメモを手がかりに、内容を想起し英文を完成させる。</p> <p>机間指導をし、チェックをして励ます。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>理解</p> <p>A There is(are) ~ .の文をメモを取りながら聞き、前置詞や数量に注意し詳しく絵で表すことができる。</p> <p>B There is(are) ~ .の文を聞き、物の位置関係を絵で表すことができる。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>言語・知識・理解</p> <p>A 前置詞や数量に注意し、正確な There is(are) ~ .の英文を書くことができる。</p> <p>B There is(are) ~ .の英文を用いて書くことができる。</p> </div>	<p>基礎・基本</p> <p>動機付けの工夫 〔有用感〕</p> <p>基礎・基本 転写法</p>
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>6 自己評価</p> <p>7 次時の予告</p>	<p>自己評価用紙に本時の学習内容について反省させる。</p>		